

1 a 冷静

b 発達

c 器官

2 A ら

B ち

C た

3 I 論理

思考

3 II 心で

こと

4 デー

社会

5 (記述題)

6 皮肉

7 I おか

わり

II 機械

現象

8 ウ

9 エ

2 1 a 同士

b 約束

c 夢中

2 X イ

Y ウ

Z オ

3 子

室

4 (記述題)

5 A わ

B じ

C 冷

D ず

6 自己紹介

7 エ

8 ウ

9 お別れ

10 (記述題)

1 言葉や理屈はものごとを抽象的に
あつかうことは長い時間を現
実に
実感から離れた独自の世界を
作つてしまいがちだと、この世
界を

(同意可)

2 必要であるところには、何か
くなくいいところはない。観
念する気持ち。
れな
ない
と悟
り、
観
念
す
る
気
持
ち

(同意可)

10 少年と女の子の距離は縮まらないということ。

(同意可)

【配点】

1 1 各2点×13＝26点

5 1 各6点×3＝18点

2 2 各4点×14＝56点

4 10 其他

①

- 1 a「冷静」は、落ち着いているさま。「冷」は「にすい」である。b「発達」については、「達」のよこぼうの本数をまちがえないようにしてほしい。c「器官」は同音異義語に注意するとともに、「管」としないようにも気をつける。
- 2 Aは「さきゆき(先行き)」ができる。「先行き不透明な正解のない時代」は流行り言葉のようになっていくので知っておくとよい。これの頭文字語として「VUCA」という言い方もある。Bは「ゆがみ」ができる。「データに支配されていく現代社会」での様子なので、ネガティブな内容の言葉になることが想定される。Cは「わだかまり」ができる。こういった和語の問題としては定番の語なので、ぜひ覚えておこう。
- 3 「考える力」の構成要素を挙げていく箇所。通読時にも指示語の内容はつねに確かめながら読むこと。Iは直前から「論理力」や「論理的な力」とすると指定字数に合わないので、その言いかえとして後続から「論理的な思考」を採る。IIは——線部①の直後を読み、「感情」に類するものと見当をつけ、指定字数に合うところを探していく。
- 4 「スマートフォン」や「ネット」の「情報」に頼り、「自分の直感」をおろそかにしている、という内容なので、「情報」・「データ」・「頭」と「感覚」・「直感」・「心」というような二項対立を利用して読み進め、言いかえとしてはその対応を確実にとらえることが必要である。「世の中」の言いかえで終わるだろうという見当をつけることも大切である。
- 5 「本文中の言葉」を用いてもあるので、同段落をまとめればよい。そのまま書き写すと若干字数が苦しくなるので、係り受けを調整するなど、ひと工夫はしてほしい。
- 6 言葉の意味から攻めてもいいが、何に対しての評価を表す言葉なのかと考えても類似表現を探すことはできるだろう。
- 7 IとIIの問い方の違いにも注目できるとよい。Iは単純な言いかえを求めているので、字数指定が短いことから考えても、逐語的な言いかえが求められていると見当がつく。それに対して、IIは「具体的に説明した内容」なので、「逆転現象」の内容をつかむために同段落を読み、おおむねの内容をとらえてから探す。
- 8 感覚を数値化して健康のために役立てるというのが、本来のあり方であったのに、数値から自分の感覚を納得するようになってしまふという「逆転現象」であった。「くのために…する」という関係が入れ替わっているので、それを表す二字熟語を考える。
- 9 指示内容は傍線部を含む一文を読んでから探すこと。

②

- 1 a「同士」は同じ種類・同じ仲間であること。「同志」との区別をしっかりとつけてほしい。「同志」は志を同じくする仲間。b「約束」やc「夢中」は字形を慎重に書いてほしい。
- 2 イ「緊張」が複数に使えるそうだが、くり返し不可の条件がついているので、Xに使う。Zも「緊張」が要素としてはあてはまるものの、後続文を見ると、「不安」とすることも可能だろうからである。
- 3 「自己紹介」のようなものを想定するのではなく、この場にいることというイメージでとらえてほしい。続く段落にも、本来はツネちゃんと来るはずだったというようなことが書かれていて、宇宙や星にも興味がないので来なくなかったことが語られている。「やっぱり」はそのあたりの事情をふまえた表現であろう。
- 4 ステッカーをもらうには教室に参加しないといけないということを、健康のためには予防接種が必要だという理屈との類比でとらえた表現である。抽象化して共通点がわかるように書きたいところである。
- 5 A「にわか」は、ものごとが急に起こるさま。B「身をよじる」は、体をねじることだが、慣用的には嫌なことがあって、という文脈で使う。Cは、からかわれる文脈なので「冷やかして」となる。D「うわずって」は「づ」ではなく「ず」とする。かなづかいも確認しておこう。
- 6 「名前で呼んでもらえない」↓「さっきの③」はなんのため」というつながりなので、「名前を知る」ことに関わるものが入るはずである。
- 7 「さっき」からの「変化」が起こっていることで、その間にあったこと(きっかけ)を確かめる。「宇宙や星」と関わる認識が更新されることにつながるのには「誕生日が同じ」ということであろう。直後の段落の「わたしたち」の「巡り会」という認識もふまえよう。
- 8 まず、「俺も」がウソであることを確認してほしい。理科は苦手で、宇宙や星にも興味はなかったが、特製ステッカー目当てのツネちゃん同様、ステッカーが欲しかったのである。Aはプラネタリウムに話題の中心があるが、ウは女の子への気持ちになっており、ウを適切と判断する。
- 9 直後に「泣きたいような」ともあるので、ネガティブなできごとをふまえているはずである。また、「高鳴り」が「おさまった」という「変化」なので、先ほどまで高鳴っていたときとの変化を考える。女の子の側は少年にそれほど興味を持っていていなかったのであった。
- 10 「十二月十九日」の「ベガ」と「アルタイル」なので、少年(ないし書き手)はここでアルタイルに自分(少年)を、ベガに女の子を重ねていると考えられる。一年後の『子ども天文教室』の話をし、会えるだろうかと考えていることも、七夕との関連でたいへん示唆的である。